

～もし、あなたがいつもしていることをするなら
いつも得ている結果を得るだろう～【アンソニー・ロビンズ】

あの興奮が来年にも・・・



今、2階の窓から深く静まり返ったグラウンドを眺めながらこの記事を書いている。全力で走り抜ける姿に向ける歓声と熱気が入り混じった光景は、遠い過去のようにも感じるが、つい数日前の出来事だったのか。

学年を超えて、全ての競技を全力で応援する姿は脳裏に焼きついている。私はあの感動を一生忘れることはないだろう。この感動が来年にも再来年にも、後輩に受け継がれることを胸に・・・

「私は流されない」

T・Y（3年2組）

「応援団募集中!」。2年生の終わりごろ、応援団のポスターを眺めていました。特に自分から入ろうという気はありませんでしたが、友達から誘われてなんとなく入りました。最初はたくさんの希望者がいましたが、練習が始まってから徐々に人数が減っていきました。また、バイトや用事で休むメンバーもたくさんいました。練習中に「辞めたい」と口にするメンバーもいました。そんな中、私は一度も辞めようと思ったことはありませんでした。なぜなら、1日1日一生懸命踊っていたらそんなことを考える暇すらなかったからです。私はただ一生懸命踊っていただけなのです。

本番当日、緊張でお腹が痛い中、私は学ランを着てグラウンドに立っていました。しかし、迷いはありませんでした。それは、一生懸命練習した自信があったからです。太鼓の音が鳴るとともに、無我夢中で踊りました。踊り終わったあと、達成感に満ち溢れていました。あの時の達成感は一生涯忘れることはありません。

赤団の応援団の皆、本当にありがとう。



赤団いくぞ—————!



せ～の! い～ち! にい～い!!!



全力疾走!!



ワンツーフィニッシュ!!!



「恥ずかしがるのが恥ずかしい」

M・R（3年3組）

体育祭を終え、5日経つけどまだ僕はあの日のことが頭に残っています。今年、応援団を筆頭に生徒全員で体育祭を盛り上げることができたと思います。この体育祭の成功までにいろんなことがありました。応援団に対する意識の差で喧嘩になったり、私生活の乱れで団に影響が出たりして、それが理由で辞めた人も沢山います。けれども、一つ一つの壁を乗り越えひとつになることで、本番を成功させることができました。最初はしんどいと思っていた応援団も、支えてくださった先生方や応援してくれるクラスメイト、団の仲間同士の支えがあり、少しずつ変わっていきました。



今回の体育祭で気付いたことが1つあります。それは、1つのことを真剣に取り組むことはカッコいいということです。当たり前のことですが、今まで僕は人前に出て大きなことをすることを恥ずかしく思っていたり、誰かがしてくれるだろう、どうせ行事なんか楽しくない、と決め付けていました。けれど、自分たちがどう取り組むかで、決められたルールの中でもこれだけ楽しめました。毎年、友達や先輩と写真を撮ってテントで喋っているだけだった体育祭も真剣に自分で変えようという気持ちでここまで変えることができました。たしかに、応援をしている時間が多すぎて、携帯に入っている体育祭の写真は多くはありません。しかし、やりきったときの皆の顔や、必死に応援コールをしていた情景は、5日経った今でもはっきり頭に残っています。

今回の体育祭は、応援団だけの力ではなく、一緒に前に出てくれた生徒全員と陰ながら支えてくださった先生方、学校全体で作ったものだと思います。これが来年にも続いて欲しいと思います。本当にありがとうございました。



練習で9回が本番で28回！
3組の団結力どや！！



うおおお——！ あとちょっとだったのに！！



やってみよ——！！！！

「一生懸命」

S・M（3年5組）

6月1日が来るまでどれだけ練習したのかわからない。3年生は進路や就職のことがあるけど、そっちのけで応援団の練習に行っていた。応援団を結成した当初、他の団員は真剣に取り組んでくれなかった。バイトや用事を理由にして帰る団員もいて、残った団員で練習してはみたけれど、時間が経つにつれて人数が減っていく。毎晩、他の団員に「本番に間に合わへんから真剣に頑張ろ。」と連絡した。本番2週間くらい前に演舞が完成した。その頃にはもう、理由を作って帰る団員はいなかった。その日を境に、練習の熱は一層高まり、とうとう体育祭当日を迎えた。



応援合戦を前にして、皆お互いに「頑張ろ！！」と言い合う姿を見て僕は感動した。とうとう僕らの演舞が始まる。演舞の始めは、応援席から会話の音が聞こえてきたが、それも次第に聞こえなくなっていた。全校生徒がこっちを見ている。踊っている最中、「うわ！すげえ！」「カッコいい！！」など聞こえる。演舞が終わるころには歓声と拍手に変わっていた。退場した後、団員に向かって「ありがとう」と声をかけた。思わず、涙が溢れた。これまで一生懸命に取り組んだ練習、それが終わる寂しさ。難しい振りや太鼓を覚えてくれた団員たちに感謝の気持ちがこみ上げてきた。

2年生の終わりには「無理やり入れさせられた」と口にしていた自分だったが、この時、応援団に一生懸命取り組んで良かったと思った。赤青緑、すべての応援団員が口を揃えて言うのは「最高やった。」という言葉だ。僕はこれまで何もかも中途半端だった。でも、応援団は一生懸命取り組めたし、自分を成長させる良い機会になった。

人生最高の体育祭だった。この体育祭を実現させてくれたすべての人に、感謝の気持ちでいっぱいだ。



団旗優勝！
文化祭でも力を発揮してくれ！



練習の成果を出さぜ！！



み〜どだ〜ん、ファイヤー！！！！
そいや！！！！ボンバー！！！！